

# 羽ばたけ! TUT2023 報告書

1系 修士1年

参加プログラム名	シリコンバレー研修
研修期間	2024年2月26日 ~ 3月4日
研修先機関名・所在国	US-Japan Forum・アメリカ
研修の概要 (研修テーマ、課題、目標・目的や主な研修活動内容、研修で達成したこと等を簡潔にまとめて書いて下さい)	<p>この研修での私の目的は、シリコンバレーにおける技術革新の最前線を肌で感じることでした。最初に、シリコンバレー及び日本の歴史を学び、文化やバックグラウンドの理解を深めました。これは、現地での生活や交流において非常に重要な知識でした。この学習を通じて、バックグラウンドを知る事は文化を知る事であり、現地の方々と交流、そして共に生きていくうえでは、必ず知っておかなければならないことだと認識しました。さらに、UCバークレーとスタンフォード大学の訪問は、世界トップレベルの学習環境と学生たちの学びに対する熱心さを直接体験する貴重な機会でした。特に、野村教授と榊原教授からの講話は、私のキャリア形成における大きなインスピレーションとなりました。彼らからのアドバイスは、今後の環境作りにおいて大きなモチベーションとなりました。プロフェッショナル講演会では、17名の様々な分野のプロフェッショナルとディスカッションをしました。お一人お一人から学ぶことがたくさんありました。どの方々からも感じられたことは、「情熱」と「ワクワク」です。様々なご経験をされてきたプロフェッショナルの方々はとてよかったです。やりたいことは、ひたむきに努力して夢をかなえていこうという気持ちが芽生えました。また、現地での生活を通じて、アメリカの働き方や文化を学ぶことができ、日本の教科書では得られない貴重な知見を得ました。最終的に、この研修は私にとって、将来海外で働くための具体的なビジョンを持つきっかけとなりました。アメリカで活躍する多岐にわたるプロフェッショナルの方々からは、海外でのキャリアに対する具体的なイメージを持つことができました。この経験を活かし、学生生活が終わり社会に出る際には、情熱を持って自らチャンスをつかんでいこうと思います。全体を通じて、この研修は私の視野を広げ、国際的な舞台で活躍するための貴重なステップとなりました。</p>
活動写真1枚 (修了証の写真でも可)	

## 羽ばたけ! TUT2022 報告書

### 研修内容

#### 研修プログラムの内容について

本研修では、大学及び企業見学、シリコンバレーと日本の歴史を学ぶツアー、そして毎晩開催されるプロフェッショナル講演会(計17名のプロフェッショナル)が設けられ、毎日充実した研修でした。大学・企業見学では、現地でしか味わうことのできない雰囲気を感じたり、実際にそこで活躍されている方のお話をお伺いしたりしました。歴史を学ぶツアーでは、シリコンバレーの成り立ち、シリコンバレーと日本の関係、シリコンバレーの地



で日本人がどのように歩んできたか、ということ学びました。これらの歴史を学ぶことは、現地で活動するうえでとても重要なことであると感じました。プロフェッショナル講演会では、多岐にわたる分野のプロフェッショナルのお話を伺い、ディスカッションも行いました。自身のこれからのキャリア形成に向けて、日本を離れて活躍する方々の話にはとても刺激を受けました。

#### 学習成果について

私の今回の研修の目的は世界の技術革新の中心地であるシリコンバレーを自身の目肌で感じて学ぶことで、自身のこれからのキャリアに向けて新たな視点を得ることでした。

本研修では、まず、シリコンバレーの地がどのように形成されたのか、そして、日本の歴史とどのようなつながりがあるのかを学びました。これから研修する地のバックグラウンドを知ることは、後の日程の学びをより深いものにさせました。また、バックグラウンドを知る事は文化を知る事であり、現地の方々と交流、そして共に生きていくうえでは、必ず知っておかなければならないことだと認識しました。今後海外に行く際には、現地の歴史を学ぶことで、より学びが深まり、現地の方々とのコミュニケーションもうまくいくと思います。

大学見学では、高いレベルの大学の環境や学生の様子などを実際に自身の目肌で体感できたことはとても良い経験でした。のびのびしながらも真剣に学んでいる様子を見て、私もここで学びたいという気持ちが芽生えました。この気持ちは、現地にきてなければ芽生えていなかったと思います。UCバークレーの野村教授とスタンフォード大学の榎原教授のお話はとても刺激的なもので、また、自身のこれからのキャリア形成の大きな鍵となるアドバイスがたくさんありました。野村教授の「トップに触れる大切さ」という内容のお話は、自身のこれからの環境づくりのモチベーションになりました。今後の自身の環境づくりを大切にします。榎原教授の「研究における言語の壁」についてのお話は、自身のこれまでの英語でのディスカッションの姿勢を考えさせられました。自分の技術に自身が持つように努力し、その技術と情熱をもって接することが、研究における言語を超えたコミュニケーションであると気づきました。

プロフェッショナル講演会では、お一人お一人から学ぶことがたくさんありました。どの方々からも感じられたことは、「情熱」と「ワクワク」です。様々なご経験をされてきたプロフェッショナルの

方々はとてもかっこよかったです。私がプロフェッショナルの方々からの話を聞いて、一つ胸に留めたことがあります。それは、「自分の気持ちに正直に生きろ」です。やりたいことは、ひたむきに努力して夢をかなえていきます。

### **研修を通じた海外での経験について**

研修プログラムの内容の学びに加えて、海外滞在を通じた学びもたくさんありました。学校の教科書からは学ぶことのできない英会話や、アメリカの働き方や衣食住などの生活スタイル等を学ぶことができました。日本の教科書で学ぶことや日本で報じられているアメリカの状況から自身でイメージしていたこととは少しギャップがあり、これも実際に現地で研修をしたからであると感じました。また、この研修に参加した他大学の学生と交流できたこと



も、とても良い経験でした。この研修に参加した学生の意識や学ぶ姿勢から学ぶことはとても多く、これから自分自身が学んでいく上での大きなモチベーションとなりました。

### **今後の進路への影響について**

この研修を通して、自身のこれまでの固定概念がとても覆され、今後のキャリア形成を検討するうえでの幅が広がりました。これにより、将来に対するワクワクと楽しみが増えました。これは、自身の目肌でアメリカを体感したからこそ生まれたものです。また、これまで、将来海外で働いてみたいという希望はあったものの、海外勤務に対してのイメージがあまり沸いていませんでした。この研修では、アメリカで活躍されている、多岐の分野にわたるプロフェッショナルのお話を伺い、海外で働くことに対するビジョンが少し見えてきました。もう少しで学生生活が終わり、社会に出ていくこととなりますが、海外に出て活躍したいという情熱を前面に出し、自らの手でどんどんチャンスをつかんでいきます。

